

椎名亮輔

(同志社女子大学教授・音楽美学)

「音楽と存在論的なもの」

日時: 2013年2月28日(木) 15:00~17:00

場所: 早稲田大学50号館

(先端生命医科学研究センターTWIns)

3F セミナールーム3

www.waseda.jp/advmed/access/index.html



現代音楽における音楽的時間の変容とは、それまでの伝統的な音楽的時間が対抗世界的な虚構的・劇的時間を構成しようとしていたのに対して、たとえばジョン・ケージの音楽に見られるように、時間のそのような音楽構築的性格を否定して、物理的性格に限りなく近付けようとする点にある。これにより、日常的時間における人間の存在論的なもの(存在的なものとの差延として現れて来るような)が、音楽の中でも感受できるようになる。

しかし、ここでの矛盾は、音楽という芸術の在り方に関わってくる。人生がそのまま芸術ならば(すべての音が音楽であるならば)、音楽を書き続ける意味がどこにあるだろうか。そのような問いに対して、現代音楽家たちは、さまざまなやり方で答えている。沈黙の可聴化、時間の遅延化、能動的聴取による時間の再創造……。しかし、実はこれら音楽的時間の諸相は、伝統的な音楽の中にもすでに存在していた。こうして現代音楽の変容した時間体験は、伝統的なものも含めた音楽的体験全体を新たな視点から見直すことを可能にする。



事前登録不要

お問い合わせ:

堀江俊行, 岩崎秀雄

(metaPhorest, 早稲田大学)

info@metaphorest.net

* 本講演は、文科省科学研究費 基盤研究C「ポスト・ゲノム時代のバイオメディア・アートに関する調査研究」の支援を受けています。